

# 営農支援情報

(第2号)

発行元：ホクレン北見支所 営農支援室

～営農のお役に立つ情報をお届けします～

(アドレス：)

## ●オホーツク地区の農作業安全（農作業事故の撲滅・軽減）に向けて

オホーツク地区では、令和2～4年度の3カ年を「**農作業事故ゼロ推進キャンペーン**」期間と位置付け、管内各産地で積極的な啓発活動を実施することなどにより、『**生産者自らが農作業安全について考え、声を上げ、意識を持って取り組む**』姿を目指すこととしています。

農作業事故は例年数多く発生しています。他産業の労働災害による死傷者数に比べても、かなり高い発生率となっており、農業が非常に危険な業種であるということを改めて認識する必要があります。今後、大事な担い手を失わないためにも、また、個々の経営・地域農業の安定的な振興を図る上でも、農作業事故の防止は重要な課題です。

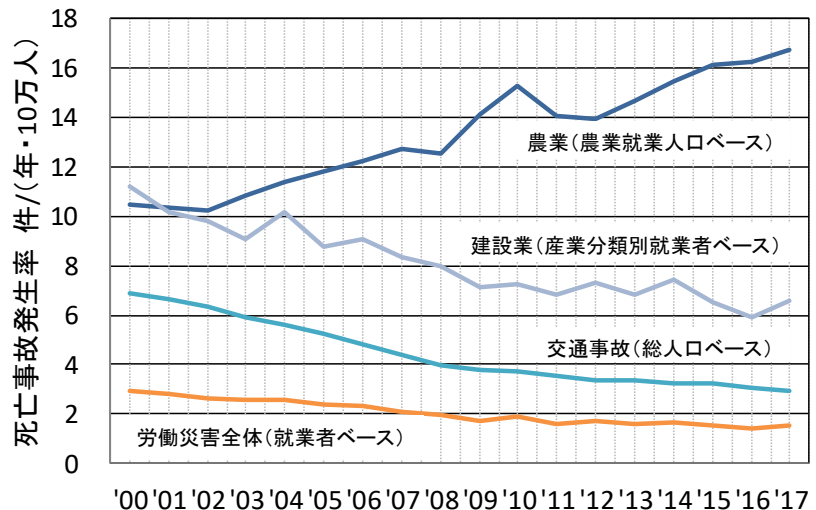
労働安全は、特に農業においては自己責任の範疇と捉えられることも多くありましたが、地区全体の課題且つ自らのリスクとしてとらえ、農業に係るすべての人間が主体的に取り組む環境としていかなければ、事故発生数の減少には繋がっていきません。

オホーツク地区も例外ではなく、北海道内で決して事故発生数が少なくありません。地区一丸となって、農作業事故や交通事故を防止するため、農業者自らが農作業安全に対する意識を高め、地域として安全運動推進に参加貢献する気運を高めていきましょう。

農作業安全情報センターのホームページには、農作業事故や安全に係る情報やコラムが豊富に掲載され、「農機安全eラーニング」といったコンテンツもあります。外出が難しい中、ぜひご活用されてはいかがでしょうか。

<http://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/index.html>

図 他産業全体、建設業、交通事故における就業者（交通事故は総人口）10万人あたり死亡事故件数を農業と比較（農研機構資料から引用）



※死亡事故件数については、農業は農林水産省、交通事故は警察庁、労働災害および建設業は厚生労働省調べ。総人口、就業者数は総務省統計局調べ。

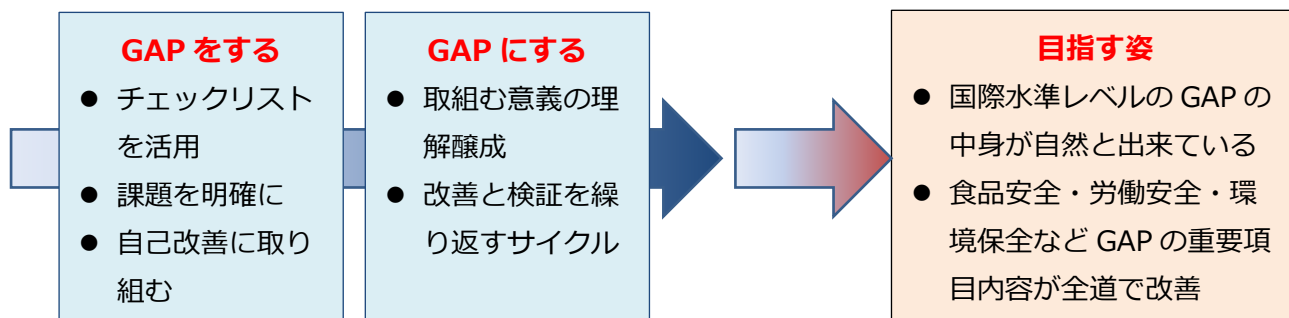
## ● JAグループ北海道の『畑作物GAPの取組み』について

JAグループ北海道では、令和元年より「畑作物GAP」のプレ実施に取組み、令和2年度より本格実施することとしています。麦・豆類・てん菜・馬鈴しょのいずれかひとつでも作付けされている生産者の皆様のお手元には、各JAよりチェックリストが配付されています。

この畑作物GAPは「**GAPをする**」の取組みであり、第三者認証（**GAPをとる**）ではないことから、各項目の達成判断を各生産者様が自らご判断いただきます。

この取組みを通して、必要に応じて自己改善に取り組んでいただいたり、より効率的で合理的な経営にお役立ていただければ幸いです。また、地区段階や全道段階において、改善が必要となる事項や優先順位を明確にし、組織的な改善運動や啓発活動につなげていくことを目的としています。認識を広く共有して、改善と効果検証を繰り返すことで、「**GAPをする**」から「**GAPにする**」を目指しましょう。

### 図 GAPに係る当面の取組みと将来的に目指す姿（イメージ）



JAグループ北海道では、GAPをめぐる外部からの環境変化もありますが、残留農薬基準値超過や異物混入などの事故が発生していることや、農作業事故が依然多く発生している現状を受けて、GAPに係る対応について取組みの方針や内容が検討されてきました。

平成29年5月の「JAグループ北海道農協基本農政対策本部委員会」で決定された「JAグループ北海道のGAPの取組方針」を踏まえて、平成30年6月29日の「JAグループ北海道農協食の安全・安心確保対策本部委員会」で「今後の取組み」が決定されました。

#### 目的

「**食の安全・安心に係る課題や生産者等の労働安全の課題等の内部環境**」ならびに「GAPをめぐる外部環境」に対応し、**JAの営農指導体制の強化ならびに持続可能な北海道農業の確立を目指すため**、GAPを推進する。

## ●トラクター等の“もしも”の事故に備えて JAの自動車共済 《JA共済》

トラクター等の農作業自動車の保障は  
大丈夫ですか？

「少ししか使わないから」「少ししか道  
路を走らないから」でも、大きな危険（リ  
スク）があります。

JAの自動車共済で“もしも”に備え、  
「安心・安全」農作業を。

詳しくは、別添のチラシをご覧ください。

また、ご加入に際してはJAの共済担当  
部署にお問い合わせください。



映像で確認 農作業事故のこと

「明日も農業を続けるために。」

公開中

JA共済ホームページから  
ご覧いただけます。



## ●農薬の適正な使用・管理とドリフト防止について 《生産資材課》

農薬を使用・管理する際には必ず包装ラベルに記載してある適用作物、適用病害虫、使用  
回数、使用方法、使用時期等を確認することが非常に重要です。

また、ドリフト（飛散）とは、散布された農薬が対象の作物以外の作物に付着してしまう  
現象ですが、主に風により引き起こされます。農薬登録適用外の  
農薬が作物に付着した場合、残留基準値超過  
の原因となり、流通で  
きなくなってしまうた  
め注意する必要があります。

農薬を散布する際  
には、「ドリフト防止」と



「適正な使用・管理」に心がけ、農薬による事故がないよう取り組みましょう！！

## ●アグリポート 24号を発刊 《営農支援推進課》

4月1日にアグリポート24号(4・5月号)を発刊しています。今回の特集は「配偶者は農業経営の頼れるパートナー 夫婦農業」です。

北海道の農業は多くが家族経営です。経営主にとって、配偶者や家族は単なる労働力ではなく、大切な経営のパートナーです。夫婦が対等な関係で営農に関わることが農業経営を成長させる鍵のひとつとして、それを実践しているご夫婦の事例や、夫婦で営農する際のポイントなどを紹介しています。また、独身者向けの情報として、農家の婚活パーティー参加者の感想を赤裸々に語っていただきました。



## ●アグリポートのバックナンバーはホクレンのHPから 《営農支援推進課》



新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、農業関係でも研修会や会議、集会など、多くのイベントが開催の中止や延期となっています。

このような時期、みなさま冊子やインターネットなどを活用して、農業に関する情報収集をされている方も多いのではないのでしょうか。

アグリポートは最新号を含むバックナンバーをホクレンのホームページ上で公開しています。ぜひご活用いただければ幸いです。



内容に関してのお問合せやご意見につきましては、ホクレン北見支所営農支援室（担当：川口）までメールにてお願いいたします（11einousien@hokuren.jp）。